

# 絵本の内容理解における下位技能の寄与(II)：文脈の理解しやすい効果

## The relationship between text comprehension and false belief in preschoolers (II).

光田 基郎<sup>†</sup>

Motoo Mitsuda

<sup>†</sup>大阪教育福祉専門学校

Osaka Vocational College of Education and Nursing

mitsuda@mopera.net

### Abstract

This study analyzed components of text comprehension skills of preschoolers aged 5-6 year olds, by figuring out how textual contents are organized and integrated with previously acquired world knowledge to build a coherent mental representation of the meaning of the text.

**Keywords** —Preschooler, Text comprehension, Context

### 1. 目的

5歳児に電算画面で絵本を読み聞かせ、理解が困難な文（古い家の雨漏りは泥棒や狼より怖いとの話を泥棒と狼が立ち聞きして、お互いを未知の「ふるやのもり」と誤解して恐れて逃げる話）と、理解が容易な例（偽坊主が老婆にネズミがちょろちょろと出鱈目なお経を唱えさせたらこれを聞いた泥棒が老婆に監視されたと誤解して逃げる話、光田、<sup>15</sup> 日教心）の各々の理解と下位技能得点を主成分分析して、パス図を対比する。

### 2. 方法

上記の絵本を 12 又は 14 画面と挿入質問 4 画面を録音・録画して参加者ペースで個別に画面で読み聞かせた。参加者は秋田市内の私立幼稚園の 5・6 歳児 28 又は 24 名、半数は「なぜ泥棒が逃げたか」を考えて視聴するように事前指示。読後後に画面で再認検査、下位技能検査（類推：大人—子供と窓の開閉など 2 次元を組合せて対応させた室内図選択）、反応抑制（リングを指さす前にバナナを指さすなど）、統語（トラックをタクシーが牽く絵の選択など）、誤信念理解（サリーとアン課題）と長文記憶（留守番中の読書、電話、郵便の配達を読み聞かせた順序通りに画面の図を指さす）を計 11 画面で実施した。個別実験の平均所要時間は 16 分である。

### 3 結果と考察

上記の絵本の各々の再認とその下位技能を主成分分

析してパス図を求めた結果が図 I である。幼児が理解し難い「雨漏り」を題材とした絵本では(a)類推が第 1 主成分を構成しない。第 1 主成分は長期記憶系の出力に限定される点で、文が理解しやすい場合の第 1 主成分が類推と長文理解技能が示す高次の表象操作と処理資源活用を示す結果とは対照的である。第 2 主成分はいずれの文の場合も反応抑制による間接的な誤信念理解への促進に、第 3 主成分は、文法など言語理解をそれぞれ示す。(b)理解困難な文では読前読後の指示が途中質問、読後の内容推理再認と反応抑制の各々を促進しない点で理解容易な文とは対照的である。

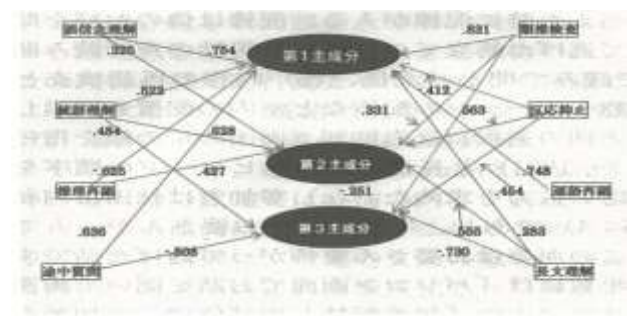
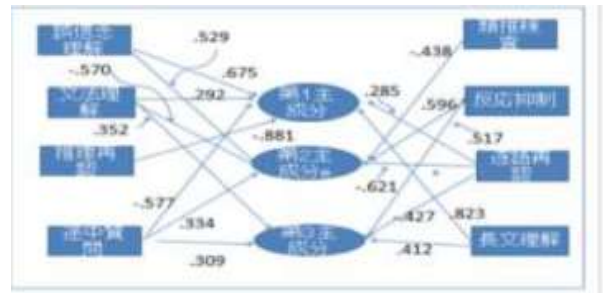


図 I. パス図の一部（指示条件：上は「雨漏り」文、下は「ネズミ経」文の理解の技能の主成分を示す。）

以上、誤信念理解における作業記憶の寄与を示唆した。

### 4. 文献

Kim, Y. 2015. Language and cognitive predictors of text comprehension: Evidence from multivariate analysis. *Child Development*, 86, No.1, 128-144.